

高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20
高知県地域福祉部障害保健福祉課内
高知県精神保健福祉協会
電話：088(823)1111・088(823)9669(直)
FAX：088(823)9260
E-mail：kochi-mhwa@mopera.net
発行人 明神 和弘 編集人 谷 晃

第262号

平成28年度活動計画

高知県精神保健福祉協会会長 明神 和弘

4月に発生した熊本地震には私達も驚かされましたが、地震に関する専門家の方々も予想をしていなかったようで、改めて地震の恐ろしさを思い知らされたように思います。東日本大震災と比較すれば津波の被害がなかったのですが、それでも多くの方々も亡くなられ、被災されました。いまだに仮設住宅で暮らし自宅に戻れない方々も多くいらっしゃいます。本当にお気の毒です。心よりお見舞い申し上げます。

高知県精神保健福祉協会では4月末に行われた総会で、私が引き続き会長を勤めさせていただくことになりました。不安はありますが、会員の皆様にご協力いただきながら頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

さて、平成28年度の高知県精神保健福祉協会の活動計画がまとまりましたのでご報告いたします。

広報委員会では例年どおり『高知精神保健』を年3回発行いたします。特集記事としては、精神保健福祉大会関連記事、文化交流会、スポーツ大会、新しく企画しているバリアフリーフェスティバルなどを取り上げていく予定です。またホームページの充実にも力を入れていきたいと思っています。

大会実行委員会では、今年は「うつ病とリワーク」～就労と再生の支援～をテーマに選びました。皆様もご存知のように、うつ病は日本だけでなく世界的な問題でもあり、その経済的な損失は2020年には、他の疾患を抑えて第一位になると予想されています。うつ病が良くなり、そして再び働けるようになることは、本人や家族だけでなく我国にとっても大切な課題だと思

われます。当日は、札幌で精神しょうがい者のリワークに力を入れて診察を続けていらっしゃる、大通公園メンタルクリニックの山田秀世先生にご講演いただき、その後、高知県内で精神障害者のリワークに携わっている関係者3名を交えシンポジウムを予定しています。大会日程は平成28年10月19日(水) 13:00～16:00で例年通り高知県民文化ホール(グリーン)で行います。

総合福祉委員会では卓球大会、文化交流会は例年どおり行う予定です。卓球大会は平成28年6月21日(火)高知県民体育館にて、文化交流会は平成29年2月21日(火)高知県民文化ホール(グリーンホール)にて行います。例年行われておりましたソフトボール大会は昨年で終了となりました。その代わりに今年からは新企画として、バリアフリーフェスティバルを体力だけではなく、知力や時の運なども含まれた老若男女が楽しめるバラエティーに富んだプログラムとして、平成28年9月30日(金)に高知県民体育館で行う予定です。

調査研究委員会ではテーマが見つからず本年度は中止とさせていただきます。

研修委員会では「第19回精神保健福祉従事者リフレッシュ研修」を開催いたします。日程は平成28年8月～12月で月1回計5回の予定です。また「地域研修」を平成28年11月1日(水)日高村にて行う予定です。

基金運営委員会では、例年どおり社会復帰施設への貸付事業を行います。借入金の限度額は200万円で償還期限は1年以内、無利子で貸付いたします。必要に応じて利用して頂ければと思っております。

目次

平成28年度活動計画	1
第16回精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 高知	2
平成28年度高知県精神保健福祉関係機関連絡会	3

LGBT自助グループコナツハットの活動とにじいろ防災ガイド	4
第19回精神保健福祉従事者リフレッシュ研修	5
ソフトバレーボール大会の結果について	5
精神保健福祉卓球大会の結果について	6

第16回精神保健福祉 ボランティア全国のつどい in 高知

～ よう来たね 以心 伝心
ほっとな土佐へ ～

平成28年6月25日(土)、三翠園（高知市）において、「第16回精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 高知」が開催された。主催は同実行委員会、後援の高知県からは平成28年度高知県福祉活動支援基金助成事業に認められた。



山崎正雄所長

開会行事の後、まず高知県精神保健福祉センターの山崎正雄所長が基調講演「共に生きる社会をめざして」を行った。山崎所長は、精神障害者に関わる明治時代からの法律・制度の変遷を概観し、平成になりよ

うやく医療や福祉の資源が整い、精神科医やメディカルの専門職も増え、利用できる制度上のサービスは揃ってはきたが、そのような場所で障害のある人そのものの実像が見えにくくなった事を自らの経験から示した。手続きとしての相談ではなく、障害者が生きづらさを訴える生身の声を聴く人の存在として、専門家ではないボランティアの存在がかたわらにあることへの期待を「共に生きる社会をめざして」という言葉にこめた。

続いて、藍染工房やレストランで働きながら絵画に取り込む精神障害者のドキュメンタリー映画「あい」のダイジェスト版(20分)を鑑賞。

そして参加者130名を12の分科会に分けてグループワーク「とりもどそう 安心して暮らせる 関係づくり」を行った。各グループでテーマを、精神保健ボランティア、グループホーム、作業所、映画「あ

い」、障害者との関わりなどに分担し1時間を超えて熱心に話し合いを持ち、その後話し合った内容の発表を行い、日常のボランティア活動の中から見えてくる障害のある人、支援する人の姿を共有することができた。



福井和子実行委員長

実行委員長の福井和子氏（ほっとはあと）は、「高知で開催してほしいと望んだ全国ボランティア、県外から64名もの参加で、高知県からも多く集い、情報を分かち合い交流し、意義深い会となりました。」次回は石川県小松市で開催予定。



フラダンス～君は愛されるために生まれた～



**平成28年度
高知県精神保健福祉
関係機関連絡会**

日時:平成28年7月6日(水)
場所:高知城ホール

各機関の平成28年度の活動状況について

1. 高知いのちの電話協会

- 本年度において養成講座を開催できない。新年度は11月から募集。
- 相談員相互交流の活発化のため、交流会、こころカフェの開催。

2. 高知県社会福祉協議会(地域・生活支援課)

- 生活困窮支援事業の相談件数2467件、プラン作り217件。障害者110番への電話相談2943件、9割が精神障害。
- 福祉活動支援事業に1000万円の枠があり、障害者・高齢者への支援が対象。

3. 高知県精神障害者家族会連合会

- 運賃割引についての国会請願への署名が、県内で21000名あったことに御礼。
- 四国ブロック研修会が愛媛で開催される。

4. 高知県精神障害者地域生活支援施設連絡会

- 会員間施設間の交流親睦のための交流会を開催し、ピアサポーターの養成につなげる。
- 障害者優先調達法の共同受注窓口に参加。

5. 高知県精神神経科診療所協会

- 10月に研修「iPhone を使った認知行動療法」
- 会報「ブックレットにつせいしんNo.8」の紹介
<http://www.japc.or.jp/>

6. 高知県精神保健福祉士協会

- 7月24日海の日に、SW MSW PSW 3団体協力してソーシャルワーカーデー関連講演「地域で支える認知症」開催。

7. 高知県断酒連合会

- アルコール健康対策基本法が制定されたが、アルコール中毒は減っていない。
- 県内の断酒会4団体の連合会組織で、連合会としては四国ブロックに関係する行事と11月の啓発キャンペーンが中心。

8. 高知県臨床心理士会

- 国家資格「公認心理士法」が平成27年9月に成立。ご支援ありがとうございました。
- 熊本地震に関連して熊本市にスクールカウンセラーを派遣する。

9. 日本精神科看護技術協会高知県支部

- 研修会は、専門家対象の出前講義と、一般対象の出前講座を開催。
- 7月14日に西部地区研修を聖ヶ丘病院(宿毛市)で開催。

10. 精神障害者ボランティアほっとはあと

- 第16回精神保健福祉ボランティア全国の集い in 高知 を開催した。(P2参照)
- 高知市総合体育館の建て直しのため、ソフトバレーボール大会会場を検討中。

* 高知市から7月28、29日に開催される「ピアサポーター養成研修会」の案内があった。

<http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/37/peer.html>

* 高知県障害保健福祉課から「熊本地震DPAの活動について」報告があった。

LGBT自助グループ コナツハットの活動と にじいろ防災ガイド

NPO法人高知ヘルプデスク
理事長 浜口ゆかり

NPO法人高知ヘルプデスクは、かつて民権運動の活発であった高知を主な活動拠点として高知とLGBTのプライドを大切にしています。そしてコナツハットとは、高知特産のかんきつ類「土佐小夏」と、小屋という英語「hut」に避難所の意味をこめたネーミングです。シェルター名でもあり支援事業全体の名前でもあり、高知ヘルプデスクの愛称にもなっています。



浜口ゆかり理事長

活動としては、LGBTのための電話相談やメール相談、ピア・カウンセリング、自助グループを行なってきました。平成26年度では独立行政法人・福祉医療機構の助

成を受けて、就労支援とシェルター運営の活動を行うことができました。

その中で見えてきたことは、LGBT当事者の自己尊重感の低下です。当事者は、誹謗され、侮辱され、からかわれ、いじめられ、親からも否定的な家族環境の中で育っています。そのような中で自己尊重感や愛着形成といった人間の基礎的な部分を十分にはぐくめずに大人になっているように感じました。

平成27年度では、引き続き独立行政法人・福祉医療機構の助成を受けて、自己尊重感の回復をテーマとしてグループワークを行いました。同性間DVの被害者を受けいれる中で、精神疾患に関する知識がない支援者の限界を感じ、医療・福祉などとの連携が必要であると思いました。そこでグループワークの一つに、ソーシャルミーティングを設けました。



自己尊重感回復支援ワークショップ

ソーシャルミーティングは、LGBT支援について理解を深め、交流することを目的として行いました。臨床心理士養成大学院教授、精神科病院勤務の臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士、教員など、様々な領域の有識者が、当事者と共に参加しました。テーマとしては、当事者の適応上の困難（自殺リスク、学校生活での困難、人生設計の困難）やカミングアウトによって得られるものとリスクなどがあげられ、自己尊重感を回復するためのワークも行いました。ミーティングを通して、自己を見つめなおし、自分の性自認（「自分は女」「自分は男」など、自分が認識する性別）で生きていける社会が理想ではないかと感じました。

また今年5月初めには、岩手県の「岩手レインボー・ネットワーク」に協力し、LGBTが災害時に直面する問題や対応策をまとめた「にじいろ防災ガイド」が完成しました。両県で計7回のワークショップを開き、避難所や仮設住宅での生活など具体的な場面を想定し、問題や必要とされる支援について当事者の声が反映されています。少しでも多くの支援者の方々に、南海トラフの地震対策として生かしてもらいたいと思います。

この事業を通じて開拓した医療・福祉などのネットワークは、現在も広がっています。今年度も引き続きグループワークを行いながら、LGBT当事者のための社会資源を増やし、自分らしく生きられる社会になることを目指し活動していきます。



にじいろ防災ガイド

第19回精神保健福祉従事者リフレッシュ研修

1. 目的

精神保健福祉に従事する職員等の資質向上と実務に役立つ知識・情報を研修により獲得し、日々の業務に役立てる。

2. 対象者

精神科医療機関、障害福祉サービスの事業所職員及び、精神保健福祉の行政担当職員。

3. 内容

回数	日時	場所	内容および講師
第1回	平成28年 8月29日(月) 14:00~16:00	県保健衛生総合 庁舎5階 大会議室	「DPAT(災害派遣精神医療チーム)の役割と課題 ～東日本大震災、熊本地震から～」 高知県立精神保健福祉センター所長 山崎 正雄 氏
第2回	平成28年 9月27日(火) 14:00~16:00	県保健衛生総合 庁舎5階 大会議室	「地域でも役立つ精神科看護」 医療法人南江会一陽病院 精神 科専門 Ns 橋本 憲明 氏
第3回	平成28年 10月15日(土) 14:00~16:00	高知城ホール	「子どもの精神科臨床(仮)」 前・日本児童青年精神医学会理事長 日本 AD/HD 学会理事長 日本サイコセラピー学会理事長 齋藤 万比古 氏
第4回	平成28年 11月17日(木) 14:00~16:00	県保健衛生総合 庁舎5階 大会議室	「相手を認めるということ」 ～感情調節が難しい人たちへの承認 スキルとリハビリテーション～ 近森病院総合心療センター作業療法士 織田靖史氏
第5回	平成28年 12月9日(金) 14:00~16:00	県保健衛生総合 庁舎5階 大会議室	「地域で“ともに体験”してきました ～地域づくりサポーター養成 講座から～…障がいのあるひと を支援する」 中芸広域連合保健福祉課のみなさん

4. 受講条件

高知県精神保健福祉協会会員であること。(当日からの入会でも可・会費3千円)

5. 定員

50名程度(定員を超えた場合は、お断りすることがあります。ご了承下さい。)

6. 申込方法

別紙申込書に記入のうえ、高知県精神保健福祉協会事務局まで、郵送またはFAXにてお申し込み下さい。締切は、平成28年8月8日(月)です。

申込先

〒780-8570 高知市丸ノ内 1-2-20
高知県障害保健福祉課内
高知県精神保健福祉協会
TEL 088 (823) 9669
FAX 088 (823) 9260

第16回全国障害者スポーツ大会 バレーボール中四国ブロック予選会

5月21日～22日徳島県鳴門市鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホールにて、「第16回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技精神障害者の部中四国ブロック予選会」が開催され、高知県代表の龍馬クラブは参加10チームの中で優勝することができました。



選手宣誓

4年ぶりの優勝、そして全国大会出場が決まり選手がベンチに戻った後、岡林陽三監督と選手が抱き合って喜んでいました。その横で柏井伸夫コーチと涙が出そうになったと言い交わしました。多分コーチも毎週練習を繰り返してきた様子を思い起こしたのでしょう。

中四国地区では、2012年高知県が優勝した後、岡山県、愛媛県、山口県と毎年優勝チームが変わってきました。この4チームはどこが優勝してもおかしくないライバルです。

今回2回戦で山口県と対戦しました。昨年同じ2回戦で山口県に敗退した経験から嫌な印象が残っていましたが、3セットマッチの2セットを連取しストレート勝ちできました。

決勝で当たった岡山県には、第1セットは25対18と比較的順調に取れたのですが、第2セットは逆に15対25と大差で奪い返されました。第3セットでは、チームで気持ちを引き締め一丸となった結果、25対16で押し切り優勝することができました。



試合中の様子

昨年の敗戦後、大阪府や岡山県で他チームとの合同合宿に参加したり、交流試合をする等、他府県と切磋琢磨してきました。また、今年に入ってメンバーが多く参加し、充実した練習ができました。それらがチームの力を上げて今回の結果につながりました。

表彰式後、監督とコーチの胴上げをしました。マネージャーとして参加した私にも一応声が掛かりましたが、重量オーバーでキャンセルされました。もし、①全国大会で優勝し、②減量していたら胴上げしてくれるそうですが、②は厳しいので無理でしょう。ただ、①は是非目指して頑張りたいです。また、そうした姿が障害者スポーツを広げることにつながればと希望しています。

龍馬クラブボランティア 池 義和



卓球大会、開会あいさつ



監督会議

平成28年度高知県精神保健福祉卓球大会の結果について

平成28年6月21日(火)に高知県民体育館で、精神保健福祉卓球大会が開催されました。

***** 結果報告 *****

● 団体の部

- 優 勝 海辺の杜ホスピタルAチーム
- 準優勝 藤戸病院チーム
- 第三位 土佐病院Bチーム
- 第四位 石川記念病院チーム

● 個人の部

- 男子 優 勝 細木ユニテイ病院の選手
- 準優勝 細木ユニテイ病院の選手
- 女子 優 勝 近森総合診療センターの選手
- 準優勝 海辺の杜ホスピタルの選手

選手の皆さま、応援の皆さま、お疲れさまでした。



精神科医療の
真のパートナーを
目指して

吉富薬品株式会社
大阪市中央区北浜 2-6-18
http://www.yoshitomi.jp/

命のために、
できること
すべてを。

大日本住友製薬 Innovation today, healthier tomorrows